

第3回播磨臨海地域カーボンニュートラルポート推進協議会 議事要旨

日時:令和4年12月27日(火)14:00~15:30

場所:ホテルモンテレ姫路

●意見交換内容

- ・弊社では、段階的な脱炭素化を目指しており、第一段階としてディーゼル燃料をバイオマス等の燃料へ変えていくことでCO₂排出量実質ゼロとし、第二段階として水素燃料電池電車の導入を検討しており、2030年の社会実装を目指している。
- ・中長距離の水素輸送の検討を始めているが、県外他方面への鉄道貨物輸送の具体需要があった場合、どのように入れていけばよいか。
⇒(事務局)燃料としての使用量や、輸送量を、播磨臨海地域で受け入れる必要がある量として計画で考慮させていただく。
- ・関東では、地元市と連携を取りながら、水素燃料電池列車を試行している。その際、圧縮水素容器の保安基準の緩和が必要であり、緩和の実現には地元市町との連携が大切であると聞いている。兵庫県内でも、関係市町と連携して、保安基準緩和の検討を行うことができれば、導入しやすいと考えている。
- ・弊社では、自社でのCO₂削減の取り組みと、他社を含めたサプライチェーン全体のCO₂削減の取り組みの2つを行っている。2030年に向けて、自社での取り組みはCO₂排出量ゼロ、サプライチェーン全体では8割削減を目標に行動している。
- ・CNP形成計画の方針を検討するにあたっては、広域にPRしやすいようなCNP形成計画の副題を検討した方が良い。
- ・公共埠頭外の企業だけでなく、公共埠頭内の企業もスピード感を持って取り組む必要がある。また、播磨臨海地域が目指す姿等については、CNP形成計画の全体の内容を踏まえて、ネーミングも含めて考えていただきたい。
- ・まず、水素・アンモニアの供給量を考えることが重要。また、市民生活の中で水素活用が浸透すれば、受け入れの環境整備がしやすくなると思う。現在、国際会計基準も変革の動きがあり、企業も動く時期に来ているため、播磨臨海地域が脱炭素を先導する方針を打ち出すことに賛同する。
- ・水素等への転換を図るにあたっては価格調整が必要。供給側・消費側双方にメリットが生じるような価格調整を行政で検討していただきたい。

・CO2 排出削減計画の取り組みとして、兵庫県立大学においても、水素の貯蔵・運搬、利用等に関する研究開発に、各企業と情報共有・連携を行いながら注力していく。ぜひ利用をお願いしたい。

・姫路港から他港へ二次輸送する次世代エネルギーの需要について、どのように情報を集めて、連携を進めていくのか。

⇒(事務局)他港の港湾管理者とは随時情報共有しており、その中で連携できそうな港湾がないか、CNP 計画策定までに、引き続き検討していきたい。

・化石燃料を次世代エネルギーに転換する際に、1 社で設備を導入し、転換することは難しい。複数の企業で、地域でまとめて受け入れるような仕組みができれば、検討の余地はあると思う。個社で対応するのではなく、共同会社で受け入れる可能性について検討してみてはどうか。

・播磨臨海地域は、他港湾と比べても立地企業・自治体の具体的な取り組みが進んでいる。これらの強みを生かして、今後、この地域を脱炭素ドミノの起点にしていきたい。

以上